

資産運用の読み物

経済・投資のあんちよこ



VOL.3

最近、よく耳にするインバウンド消費って何？

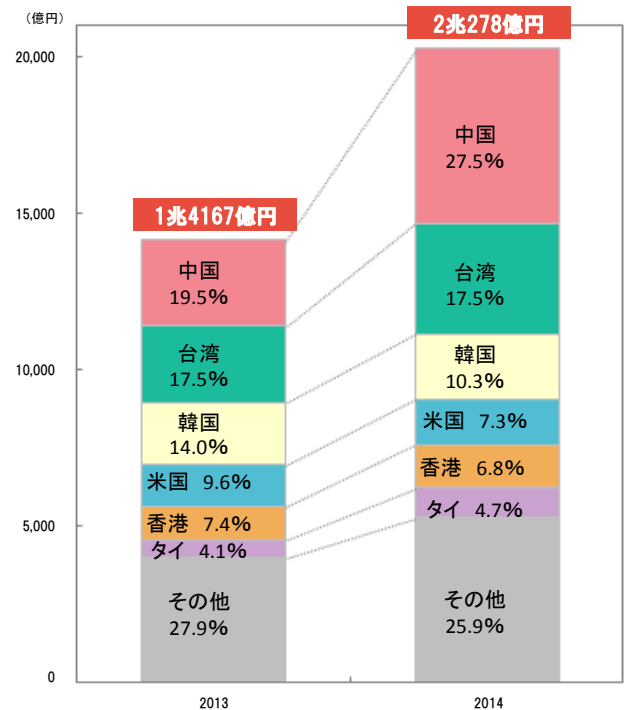
今回の話題

ここ数年、「インバウンド消費」という言葉をよく耳にします。観光庁の統計によると、2014年のインバウンド消費の総額は前年比約43%増の2兆278億円と、過去最高を更新しました。さて、ではそもそもインバウンド消費とは、いったい何を指すのでしょうか？

ますます重要になるインバウンド消費

- 「インバウンド消費」とは、日本を訪れる外国人、主として外国人観光客が日本で消費活動を行うことです。反対に日本人が海外で消費活動を行うことを「アウトバウンド消費」といいます。消費活動とは宿泊代、買い物代、飲食費、交通費等で、2014年のインバウンド消費の構成を国・地域別で見ると、上位にアジアの国々が並び、なかでも中国は全体の約4分の1以上を占めています。
- 訪日ビザの緩和や免税対象の拡充、円安等の影響により、訪日外国人数も増加しています。日本政府観光局によると、2014年の訪日外国人数は約1341万人でした。さらに、2015年3月は約152万人と単月で初めて150万人を突破、これまで春節中心だった中国人観光客にいたっては、通年化の傾向を見せています。
- 最近では、日本で大量に買い物をする中国人観光客による「爆買い」が話題となるなど、インバウンド消費は今後も成長が期待されており、日本経済にとって、ますます重要な存在となりそうです。

■インバウンド消費の比較(2013年、2014年)



(出所)観光庁『訪日外国人消費動向調査』2014年年間値(確報値)を基に三井住友アセットマネジメント作成

Point

訪日外国人が日本で消費活動することを「インバウンド消費」といい、日本経済にとってますます重要な存在となりつつあります。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。